

## 女性の就業意識

岡崎女子短期大学 加藤佳子・清水めぐみ

はじめに

近年では、女性たちが勤めに出て働くことは、少しも珍しいことではなくなった。また、女性の就業に関する話題やニュースがマスコミに多く報道され、『とらばーゆ』『日経ウーマン』など、女性向けの就業情報誌も多く発売されている。

こうして社会経済環境が変化していくなか、私たち2人は女性の就業形態、雇用形態が現在どのようになっているかに興味を持った。このため、まず全国女性の就業傾向の分析を試み、さらに岡崎女子短期大学の学生とその母親を対象にどのような就業意識を持っているのかをアンケート調査しその分析を行った。

### 1. 女性の就業について「理想」と「現実」

女性の就業パターンは大きく3つ「継続就業型」、「再就職型」、「専業主婦型」に分けられる。「継続就業型」は結婚し子どもが出来ても働き続ける、「再就職型」は結婚や出産で退職し子どもの手が離れたら再び働く、「専業主婦型」は結婚後は働かないというものである。

国立社会保障・人口問題研究所「第2回全国家庭動向調査」によると、現実に5割の女性が「再就職型」の就業パターンをとっていて、継続して仕事に就いている女性は少ない。一方、理想の働き方をみると、現在どのような就業パターンをとっているのかにかかわらず、「再就職型」の割合が多い。とりわけ現在「専業主婦型」

現実の働き方	総数	理想の働き方				
		継続型	再就職型	専業主婦型	DINKS型	その他
継続型	19.0%	28.7%	45.9%	17.1%	1.5%	6.8%
再就職型	50.2%	16.7%	54.6%	21.2%	1.6%	6.0%
専業主婦型	20.5%	10.7%	53.5%	28.5%	1.9%	5.4%
DINKS型	2.5%	29.5%	43.8%	15.8%	8.2%	2.7%
その他	7.9%	12.6%	31.8%	10.3%	1.9%	43.4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

でいる人のなかには、子どもの手が離れたら再び働くことを理想とする「再就職型」が半数以上いる。つまり、現実の働き方は理想と考えている就業パターンとはかならずしも一致しない結果となっている。このようなことをふまえると、現在の就業パターンは理想ではないが、おかれている環境の中で働き方を選択しているという意識があることが考えられる。

### 2. 岡崎女子短期大学学生と母親の就業意識と現実

#### (1) 理想のライフスタイル

在学生が将来どのような働き方を望んでいるか調査した結果、最も多かったのは結婚出産を機に退職し、子育てが一段落したら再就職する「再就職型」であった。一方、「再就職型」が理想だと考える母親も、学生と同じ高い割合を占めている。

	継続型	再就職型	専業主婦型	その他	無回答	
学生	19% (31名)	63% (106名)	15% (25名)	2% (4名)	1% (1名)	100%
母親	19% (31名)	58% (94名)	19% (30名)	0% (0名)	4% (7名)	100%

ここで、一番割合の高かった「再就職型」を選択した学生について、その母親の希望している就業スタイルを見てみると、子どもと同じ「再就職型」を希望している人が74%と高い割合を占めていた。因果関係を考えると、これは母親の考えが子どもに反映しているものと考えられる。母親のライフスタイルを見て育ってきているため、その子どもは母親を基準に考えていく価値基準ができあがるものと思われる。

#### (2) 現在の母親の就業スタイル

在学生母親に関して現在の就業パターンとして高い割合を占めている「再就職型」であるが、「再就職型」のうち現在正社員として働いている人の割合は13%と低い結果が出ている。これは別項目の分析によると、家庭と仕事を両立していくには、正社員として働くことが難しいため、多くの母親が時間に自由の利くパートを選択するためであることが分かる。また、求人広告などでは、再就職でパートは募集していても、正社員を募集する企業が少なくなってきたことも要因の一つである。

#### (3) 再就職に関する意識

再就職に関するアンケート結果については、将来、再就職をするならば、「パートとして再就職したい」再就職型を希望した学生が、72%と高い割合であった。さらに、パートとして再就職を希望している学生の母親のうち、正社員ではなく現在「パート」として働いている人は62%と高い割合を占めている。このような結果から、再就職をするのであればパートが良いという学生の考え方も就業意識と同様に、母親の実際パートとして再就職したスタイルを学生が職業観として認識しているためであると考えられる。

### 3. 全国調査と岡崎女子短大生、その母親との就業意識比較

#### (1) 全国調査との比較分析

全国の既婚女性の調査と岡崎女子短期大学生、その母親との調査結果を比較して特徴的なのは、理想と考えている就業パターンについて、「継続型」「再就職型」「専業主婦型」ほぼ同じような構成比率となっていることである。

		継続型	再就職型	専業主婦型	DINKS型	その他	無回答	
全 国 (女性)	理想	17.8%	50.7%	20.9%	1.8%	8.9%		100%
	現実	19.0%	50.2%	20.5%	2.5%	7.9%		100%
岡短(学生)	理想	19%	63%	15%		2%	1%	100%
岡 短 (母親)	理想	19%	58%	19%		0%	4%	100%
	現実	6%	68%	14%		10%	2%	100%

岡崎の母親については、全国女性と比較すると2つの特徴が見られる。まず実際に「継続型」で働いている母親が6%と全国女性と比較して11ポイントも低いことである。もう一つの特色として、現実に「再就職型」で働いている全国女性の割合は50.2%、岡崎の母親では68%と、全国女性を18ポイント上回っていることがあげられる。つまり、岡崎の母親に関しては、継続して働いていくパターンをとるより、いったん子育てに専念して、その後もう一度職に就くという傾向が強いといえる。

#### (2) 全国学歴別就業形態の比較

岡崎女子短期大学生と全国の短大・高専学校の学生を比較すると、「継続型」「再就職型」合計した比率について、岡崎の学生が22.3ポイントも高いことが特徴としてあげられる。しかし、その内訳を全国と比較した場合、結婚や出産後も働き続ける「継続型」が少なく「再就職型」が大幅に多い。つまり、この調査結果から岡崎の学生は就

	継続型	再就職型	専業主婦型	その他	無回答	
岡短生	19%	63%	15%	2%	1%	100%
大学・大学院生	47.8%	23%	28.2%			100%
短大・高専	32.4%	27.3%	40.1%			100%
専門学校	44.4%	29%	26.4%			100%
高校・中学	32.4%	25.6%	41.8%			100%

労意識は高いが、母親と同様に家庭のことを優先的に考えていきたいという傾向があると考えられる。なお、専門学校卒の「継続型」希望が飛び抜けて高いのは、専門技能や技術を習得しそれを活かしたいと考えているからであろう。

おわりに

在学生とその母親のアンケートからいえるように、就労意識に関しては、全国の女性と比較して高いことが伺える。学生については母親の就業スタイルの影響を受け、将来自分も同じような就業パターンで仕事をしていきたいという考え方を持つのであろう。学生とその母親のアンケート結果には多くの共通点が見られたことから判断できる。

しかし実際は、就業環境や保育環境の問題によって仕事と子育てを両立していくことが困難であるため、多くの女性は働くことを一時的に断念するという選択をしているのだろう。在学生の母親へのアンケートを分析すると、働いていく意欲は高いが家庭を大切にしていきたい気持ちがよく伝わってくるものであった。また、アンケート意見欄には、現在の家庭状況や将来の経済面の事情をも踏まえて現実的な意見を書いた人もいた。

社会が女性の労働力を必要としていることや、結婚後や出産後も仕事を希望する就労意識が高い女性が多くいることなどをふまえると、仕事と家庭や育児の両立という事情は、さらに今後の大きな課題となってくる。

参考文献

本田由紀『女性の就業と親子関係』 勁草書房，平成 16 年

厚生労働省『女性労働白書』財団法人 21 世紀職業財団，平成 12 年

厚生労働省『女性労働白書』財団法人 21 世紀職業財団，平成 13 年

参考資料

国立社会保障・人口問題研究所「第 2 回全国家庭動向調査」

加藤佳子・清水めぐみ「女性の就業意識に関するアンケート」平成 16 年 12 月，岡崎女子短期大学学生 167 名（1 年生 71 名，2 年生 96 名），学生の母親 162 名（1 年生の母親 69 名，2 年生の母親 93 名）対象